

# 第5学年総合的な学習の時間学習指導案

授業者 向山 潤

## 1 単元名

マイツリーを通して自然に目を向けよう

## 2 単元について

### (1) 児童の実態

本学年の児童は男子4名、女子2名、計6名の学年である。休み時間は外に出て元気に過ごしている。ボール遊びや鬼遊びなどはもちろんだが、学級園のインゲン豆やトウモロコシ、バケツ稲などの様子を見に行ったり虫をとってきたりしている。授業中はよく発言し、どんな問題にも積極的に取り組んでいる。友だち同士教え合う姿もみられ、友だちの意見や考えをよく聞いている。その一方、人数が少ないこともあってか、発表時に声が小さかったり考えの対比や批判的な意見を言えなかったりする側面もある。

子どもたちの普段の様子に目を向けると、学習で取り扱う動植物には意欲的に関わろうとする姿があるが、授業外での関わりはあまり見られない。特に植物に関しては動物に比べて興味・関心が低いように思われる。原因としては、植物の名前が分からないことや自ら進んで育てている植物がないこと、例を出して話す時には、植物よりも動物のほうが理解しやすいということより感じられる。

環境学習について7月にアンケートをとり、結果は以下の通りであった。

#### ①自然と聞いて何が思い浮かびますか。(複数回答)

緑(4)、広い(1)、山(1)、森林(1)、木(1)

#### ②好きな木はありますか。

桜(2)、楓(1)、なし(3)

#### ③あなたにとって木とはなんですか。

自然の物(2)、自然(4)

#### ④これまでに植林や伐採の経験はありますか。

あり(1)、なし(5)

#### ⑤木を使ってやってみたいことはありますか。(複数回答)

椅子を作る(1)、スプーンを作る(1)、箸を作る(2)、皿を作る(2)、小屋を作る(2)  
木登りをする(1)

アンケートより、子どもたちは自然といえば植物が思い浮かぶのだが、好きな木や知っている植物の種類は乏しく、自分とのかかわりを見出すことができていないことがわかる。木を植えたり切り倒したりする経験もほとんどなく、近くて遠いものとなっている。

しかし、木が木材や製品に姿を変えると急に自分と近いものとなってくるようだ。⑤の質問にはスラスラと答えていたのが印象的であった。実際に作った経験やその工程を見たことがあることや身の回りにあるそれらが木工品であることが筆の進んだ理由であった。一方、加工品又は自分で加工することばかりに目がいき、その元となっているところには関心が薄いことが

明らかとなった。図工をはじめ、工作教室等でも自然の中から材料を調達し、板やブロック状に加工してから工作を始めるという経験はほぼ皆無であり、すでに加工された材料を使った工作しか経験がないからだといえる。

## (2) 教材観

山梨県は、県土の78%（山梨県統計データバンク 平成23年より）を森林が占めている。全国平均の66%（森林・林業白書 平成22年より）と比べても山梨県は全国で有数の「森林県」であることがわかる。山梨県の森林は、土地の標高差が大きいため、暖かい場所に生える木から寒い場所に生える木まで、たくさんの種類の樹木がみられる。このような自然豊かな山梨だが、実際に生活している子どもたちにとって、木は近い存在とはなっていない。

今回の学習で身近にある木を取り上げた理由として、子どもたちの多くが生きている木自体にあまり関心がなく、加工したりされたりした物にばかり目が向けられているということに疑問を感じたからだ。また子どもたちは、そこに生えている木がどのように成長してきたか。なぜここに生えているのかなど、考えたことがないという実態もあるため取り上げることとした。

木（植物）が子どもたちにとって遠いものとなっている理由として主に3つ考えられる。1つ目は、名前が難しかったり見分けがつきづらかったりする。2つ目は、子どもとかかわる人の植物に関する話題の少なさ。3つ目は、自然の中や自然のものを使って遊ぶ機会の減少。という点である。特に今の子どもたちは、自然に囲まれているにもかかわらず、自然の中で遊ぶ経験がとても少ない。安全面や子どもの多忙化、室内ゲーム機の普及など理由は様々あるだろうが、意図的に関心をもたせるように仕向けたり遊ばせたりしていかなければならないのが現状である。また、家庭を見ても牧丘の主産業は農業であるが、家業として行っている家は6人中1人とどまり、作物などを植えたり育てたりする経験もあまりないと聞いている。

この学習を通して、マイツリーを選んで調べ、観察し、他のもの（環境など）と関わり合っ生きていくことを学びまとめていくことで、進んであらゆる自然とふれあう姿や自然の尊さ、人とかかわりを感じ取っている姿を期待したい。そして、この学習を終えた時には、全世界で問題となっている環境問題や環境保全といった分野に関心をもって学習できるようにしていきたいと考えている。

## (3) 他教科とのかかわり

- 国語・・・生き物は円柱形（5月）、千年の釘にいどむ（7月）
- 社会・・・食料生産にかかわる人々（6～9月）、自然とともに生きる（2・3月）
- 理科・・・植物の成長と発芽（5・6月）、花から実へ（8・9月）
- 図工・・・糸のこスイスイ（6月）（木工工作）
- 道徳・・・一ふみ十年（9月）、春の女神（9月）（自然愛、環境保全）
- 特別活動・・・自然教室（事前・事後学習を含む）（5・6月）、乙女高原の自然（10月）

## 3 指導目標（つけさせたい力）

- マイツリーの観察や調べ学習を通して、木やその周りの変化に気づき、自然への親しみをもつとともに、自然と人との関わりについて考えることができるようにする。

#### 4 評価規準

見つけ る力	①自分の気に入った木を見つけることができる。 ②自分が一番伝えたいこと、知りたいことを見つけることができる。
考える 力	①計画的に観察や調べ学習を行うことができる。 ②必要な情報を本やインターネット、インタビュー等必要に応じて調べる事ができる。 ③自分なりの思いや考えをもつことができる。 ④得た情報を分かりやすく加工・編集することができる。
表す力	①調べて分かったことや考えたことを分かりやすくまとめることができる。 ②聞き手に伝わりやすいように工夫して発表できる。
活かす 力	①調べたり発表したりしたことから、実践できそうなことを取り組もうとしたり発信しようとしていたりしている。 ②いろいろな場面で友だちの良いところをみつけることができる。

#### 5 指導と評価の計画（全15時間）

時間	○ねらい・学習活動	・支援及び留意点	評価の観点				評価項目(方法)
			見	考	表	活	
2	○マイツリーを見つけて観察する。 ・お気に入りの木を見つけて、マイツリーとし、記録や観察を行う。 ・学校周辺を散策し、木々の観察を行う。	・家の庭や学校の校庭など、身近にある木を選ぶようにさせる。 ・継続して観察が可能な物を選ばせる。	○				学習プリント 写真 発言
1	○マイツリーの標本を作り、マイツリーに愛着をもたせる。 ・マイツリーの標本を作る。 ・樹木標本や木工工作等を見て、他にも様々な方法で手元に残せることに気づかせる。	・標本の作り方よりもマイツリーが手元にあることで愛着をもたせる。	○	○			標本 発言
3	○マイツリーがどんな木か調べてまとめる。 ・必要な情報源を使い調べ学習を行う。 ・マイツリーを紹介ができるように準備する。	・本やインターネットなどを用い、必要な情報を得られるようにさせる。		○	○		学習プリント 写真 発表用掲示物 等

1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○途中経過を発表し，自分とみんなのマイツリーを知ろう。</li> <li>・自分のマイツリーを紹介し，今後の研究の展望を発表する。</li> <li>・友だちの発表を聞き，不思議に思ったことを質問する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく発表できるように，必要な機器を準備する。</li> </ul>				○	○	発表用掲示物等 学習プリント 発言
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マイツリーから気になったことを調べよう。</li> <li>・マイツリーとその周りの環境などを組み合わせて調べ，関係づけてまとめる。</li> <li>・さらに，興味や関心をもったものについても調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本やインターネットなどを用い，必要な情報を得られるようにさせる。</li> <li>・観察や関係者へのインタビューは適宜行う。</li> </ul>				○	○	学習プリント 写真 発表用掲示物等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中間発表会しよう。</li> <li>・調べ学習の進捗状況を発表する。</li> <li>・友だちの発表を聞き，アドバイスや質問する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく発表できるように，必要な機器を準備する。</li> </ul>				○	○	発表用掲示物等 学習プリント 発言
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちの意見も参考に調べ学習を進めよう。</li> <li>・アドバイスなどを参考に調べ学習を行う。</li> <li>・さらに，興味や関心をもったものについても調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本やインターネットなどを用い，必要な</li> </ul>				○	○	学習プリント 写真 発表用掲示物等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調べ学習の成果を発表しよう。</li> <li>・調べてまとめたものを使って発表する。</li> <li>・友だちの発表を聞いて内容に関わってよかったところを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく発表できるように，必要な機器を準備する。</li> </ul>				○	○	発表用掲示物等 学習プリント 発言

※中間発表（11／15）は10月，まとめの発表（15／15）は1月に計画している。

6 本時の学習（7 / 15）

- (1) 目標 ①マイツリーの紹介とこれまで調べたことを発表することができる。  
 ②友だちの発表の内容から分かったことや不思議に思ったことをメモし、発表することができる。

(2) 日時 平成27年8月28日（金）5校時

(3) 場所 牧丘第二小学校 5年教室

(4) 展開

時	学習活動	○指導上の留意点 ・支援の工夫	評価項目
導入 (5)	1 これまでの活動をふりかえる。 2 本時の活動内容とめあてを確認する。 めあて ①マイツリーをわかりやすく紹介しよう。 ②発表から分かったこと不思議だなと思ったことを発表しよう。	○指導上の留意点 ・支援の工夫 ・写真と学習プリントを見て確認できるようにする。 ○発表の聞くポイントを確認する。 ○聞くポイント ・わかったこと ・不思議だなと思ったこと	
展開 (30)	3 マイツリーの紹介と発表をする。 発表例 ※本時は調べ学習の途中経過の発表のため、一人一人進度が違うが、マイツリーの紹介と調べたことの発表をする。 ※先に進んでいる子は、自分が設定したテーマについて調べたことを発表する。 ・一人ずつ順番に発表し、他の児童は発表を聞き、必要なことを学習プリントにメモしていく。	○分かりやすく紹介するために、図などを指し示して発表するようにさせる。 ・差し棒やAV機器の準備を行う。	表②
深める (10)	4 分かったことをまとめ、感想を発表する。	○感想発表を全員できるように時間配分をする。 ・感想と分かったことを分けて書くようにさせる。	活②

## 7 座席表

黒板・TV

D

マイツリー…桜(染井吉野)

調べていること

桜の花と実について



A

マイツリー…桜(染井吉野)

調べていること

マイツリーに来た虫について



C

マイツリー…イロハ楓

調べていること

樹皮の模様について



B

マイツリー…桜(染井吉野)

調べていること

マイツリーについていたきのこについて



E

マイツリー…オニグルミ

調べていること

オニグルミの実について



F

家…專業農家

マイツリー…赤松

調べていること

赤松と黒松の違いについて



※桜(染井吉野)は、学校の校庭の木だが、それぞれ選んだ木は違う。

## 8 授業を終えて

### 【授業者の反省】

- ・本時は途中経過の発表ということもあり、マイツリーについて自信をもって調べて発表することを目標とした。
- ・個人の学習プリントを活かし、今後の調べ学習や発表を充実させていきたい。
- ・調べ学習の途中経過を発表した事で、自分では気づかない視点が見えてくる部分があり学習が深まった。友だちが疑問に思ったことについて新たに調べることで、今後の学習にも広がりがもてる。
- ・自分で写真を撮ることでデータを見直すことができ、納得のいくように準備することができた。3ヶ月で60枚程撮り貯めた児童もいた。

- ・自宅の木と学校の木を選んだ児童とでは、熱意に差があった。
- ・本時はパソコンの操作を担当が行ったが、児童に行わせたかった。中間発表では児童に行わせたい。
- ・メモの取り方について事前に指導が必要であった。



#### 【研究会から】

- ・マイツリーを決めたことで思い入れができた。
- ・マイツリーとそれに関わる物事への関心が高まっている。
- ・身近な自然に関わろうとする態度が育成できている。
- ・身近にあり、普段気にも留めないような桜について、三者三様の新しい発見ができていた。
- ・マイツリーの樹皮や成長の度合いなどに興味をもつ次へのステップになる。いい意見交換になっていた。
- ・マイツリーの学習を進める上で、葉の標本作りがよいきっかけになっている。
- ・自分で写真を撮ることで、撮り方や角度など工夫の余地に気づくようになったことはよい点であった。(取り直しや何枚か撮っておくなど)
- ・どんな花が咲くのか。どんな実ができるか。などこれからのことに繋がる言葉が出ていた。
- ・本筋から離れ過ぎないように気をつけなければならない。
- ・あいまいな数の表現を許さない姿勢がよかった。
- ・めあての達成について、授業者は「まとめ段階でもう少し時間が必要であった。」と言っていたが、達成できていたと思う。
- ・これからの学習に広がりが見込まれる。



#### 【指導・助言】

- ・質問の質について、教師側から詳しく資料を準備するなどの工夫が必要であった。
- ・あいまいな数の表現を許さない姿勢がよかった。
- ・調べ学習や研究からマイツリーに戻してやる必要がある。(直接的な体験や経験をもっとしておく。触る、抱くなど。関連として草木染めなど)
- ・樹形や枯れ、枝蜜腺、胡桃の実など興味関心をもつことの体験と調べを進めていく。
- ・図書室の本の使い方と活用法を指導していくことも必要である。

#### 9 児童の発表の様子と内容 (映像と別紙)

## 10 考察

今回、総合的な学習の時間に位置付けてある環境学習を『マイツリー』を通して学習を行ったことで、近くて遠い存在であった自然を感じる事ができた。まだ途中の段階だが、子どもたちは、実際に見たり触ったり、葉の標本を作ったりしたことで身近に感じられている様子であった。子どもたちのからも「マイツリー以外の木も興味が湧いてきたよ。」「木々の見分けができるようになったよ。」「草や虫、小動物



(鳥やリス)なども調べたいな。」というような声が聞かれた。今後、継続してマイツリーの観察や記録とそこから出てきた興味・関心のある事柄への調べ学習、発表会を1月まで長いスパンで学習を続けていきたいと考えている。

子どもたちにとって、自分と木などの植物や動物などとの関わりを感じさせることは難しいが、この学習を通して自然への親しみや自然の尊さ、進んであらゆる自然とふれあう姿が増えていくことで関わりを見つけていけるよう学習を進めていきたい。